

## 平成25年度第20回定例会

### 協議事項

「これからはちおうじの教育について」

日 時 平成26年3月20日 (木)  
場 所 八王子市役所 議会棟 4階 第3・第4委員会室

---

#### 八王子市教育委員会

出席委員 (5名)

委 員 長	(1 番)	小田原	榮
委 員	(2 番)	和田	孝
委 員	(3 番)	星山 麻	木
委 員	(4 番)	金山 滋	美
教 育 長	(5 番)	坂 倉	仁

◇

○小田原委員長　それでは、次に協議事項「これからのちちおうじの教育について」を議題に供します。

本件について、教育総務課から説明願います。

○小林教育総務課長　本件につきましては、先月の大雪の影響により中止となりました教育フォーラムで実施予定でございました教育委員による公開討議を、本定例会において協議事項として御提案させていただくものでございます。

本市におきましては、来年度、第2次八王子教育振興基本計画を策定予定でございまして。ぜひ本市のめざす教育の方向性や今後5年間で優先して取り組むべき施策等について、御討議いただきたいと考えております。討議は委員長の司会で進行していただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○小田原委員長　平成25年6月に国の第2期教育振興基本計画が閣議決定され、それに沿う形で各自治体も教育振興基本計画を策定することになっております。本年その計画策定に取りかかるにあたり、教育委員の皆様のお話をお伺いしたいということです。

では最初に金山委員から願います。

○金山委員　私がこの2年間教育委員を務めさせていただいて思ったことの中から、2点お話ししたいと思います。

一つは、学習指導要領において示されていた「生きる力」から、今回の国の計画では「生き抜く力」になったのですが、「生きる力」より、もっと根源的な問題を突きつけられているような気がしています。「生き抜く力」というのは、生きていく上のさまざまな場面で、問題に遭遇したときに、それを分析、判断して行動する力だと思うのですが、特に大事なのは判断する力だと思うのです。そのためには、クリティカルシンキング、コミュニケーション力、相手を尊重して思い計る力、いろんなことが必要だと思うのですが、そのベースとなるのは、自尊感情だと思います。自分を大切に思う力といたしますか、自分が誰かに愛されていて、必要とされていると感じること、いわゆる自己有用感なのですが、それが国際的なアンケートでも、日本人の中学生、高校生が特に低いという結果であることがとても気になっています。これが低いと、その上に何かを積み上げていくことが難しいのではないかと。例えば、英語力向上、キャリア教育、ESD（※1）といったものを積み上げるための基礎として、ここのところをもっと強化すべきではないかと強く感じています。その基礎というのが、自分を律して勉強に向かうこ

とであったり、自分に自信を持って何かに取り組むことであったりしますが、そういう気持ちや心の強さが欠けているのではないかと考えています。先生方には、そういう基礎が必要なのだという前提を持っていただいて、学校も家庭も、お互いにこのことを意識していかなければならないのではないかと思います。生き抜く力の根源には、自尊感情をしっかり持ってもらうということが第一ではないかと思いました。

それから、もう一つ必要なことは、教育する側の私たちが、今、社会に大きく、そして早い変化が起きているということを前提として動かなければならないということです。最近起きたベビーシッターの事件は、母親たちの実情に社会が追いついていないという一つの例ではないかと思っています。他にも、子どもたちを取り巻くインターネット環境の変化もそうです。昨年と今年とではもう既に変化しているので、変化するということを前提にして動く必要があると思います。

例えば、ゆめおり教育プランの策定から4年が経ち、八王子ビジョン2022も策定から1年が経過していますが、先ほど改めて読み返してみて、当時はこうだったなという感覚になる部分もありました。教育は50年後先でしか結果がわからないといいますし、不易の部分がたくさんあり、そこは動いてはいけないのですが、常に社会は動いて、その動きが見えにくい世の中になっていることを自覚し、今の私たちが図れない部分を意識して、それを受け入れて進まなければいけないと思います。今やるべきことをやらずに後悔したくないと強く思っています。

例えば、特別支援教育も、八王子市は頑張っていると言われますが、それでもやはり遅かったと感じます。そこで必要なのは、大人の連携や保護者支援、家庭教育支援をためらわずにできるということではないでしょうか。主役は子どもたちなので、今までの仕組みや理屈、あるいは考え方や立場といったものにとらわれないで動くという姿勢を持たなければならないのではないだろうかと思いました。

○小田原委員長 続いて、和田委員をお願いします。

○和田委員 私は、八王子の教育環境について、日ごろ考えていることを申し上げます。一つ目は、八王子は非常に地域が広くて、それから環境にさまざまな違いがあるという点。二つ目は、学校数や児童・生徒数が非常に多いという点。三つ目は、地域の文化活動や地域協力の組織が比較的協力的な体制にあるのではないかと。四つ目は、大学などの高等教育機関が八王子にはあるという点。そうした八王子の教育環境を生かしていくために、連携や活用の拡大、またその環境を生かし切れていないという課題を踏まえ

て、幾つかの提案をしたいと思います。

まず一つは、学校教育についてですが、学校教育の教育活動や教育行政には二つの側面があると思っています。すなわち、教育水準の維持という大きな柱と、地域に応じた特色ある教育活動という柱、この2本柱の中で教育や教育行政というのは基本的に進んでいるのではないかと私は考えています。

例えば、教育水準という考え方からすると、先ほども学力調査の報告がありましたが、八王子の子どもたちの学力についてこれだけ調査しているのですから、学力が不足している学校、あるいは高めていきたいと考える学校や児童・生徒に対しての緊急的な対応と、中長期的な対応の施策を考えていくべきではないかと思っています。今までの義務教育の考え方である、どの学校も当然公平公正でなければならないという観点はわかりますが、これだけ学力や生活の格差が広がっている中であっては、ただ平等の立場というよりも、不足しているところには厚く、進んでいるところにはその手だてを長期的に考えてあげるということを、予算面でも、行政の政策としても考えていく必要があるのではないかというのが一点目です。

今、いくつかの学校で、自分の学校では最低限これだけの学力をつけて卒業させますというような、学校スタンダードといったものが学校単位でつくられています。八王子市全体の教育におけるスタンダード、つまり八王子の子どもたちはこんな力をつけて卒業してほしい、社会に出て行ってほしいというビジョンやイメージをつくっていただきたいと思っています。これが教育水準の維持という立場から考えたものです。

もう一つは、各地域、各学校の特色を生かした教育を行うには、もう少しブロックや地域等を視野に入れた教育活動づくりといったものを考えていったらどうかと思います。山間部や都市部、あるいは集合住宅地域といったさまざまな地域が八王子にはあります。そうした地域がそれぞれに別々の目標を立てるのではなく、お互いに協力できるような教育活動、先生同士が学び合い、良いところを自分の学校に取り込んでいくようにするためにも、地域やブロックということ意識しながら特色ある教育活動に結びつけて行ってほしいというのが一つの提案です。

もう一つ提案したいのは、今回の国の計画で「生きる力」から「生き抜く力」になったという点は、やはり学校教育だけでは完結しない社会になっているということだと思います。先生方は学校の中だけで教育活動を完結しようとするけれども、社会的自己実現を児童・生徒にさせるという点からすれば、ただ身に付けさせるだけでなく、それを

どのように社会で生かしていくのかという視点に立たなければならない。その視点から考えるときに、八王子の中でボランティア活動とか、あるいは就職や進路を考えるような教育への取り組みを、地域の協力や事業者の方々力を借りて展開していったらどうだろうかということを提案させていただきたいと思います。

それから、生涯学習について同様の観点から言うと、幼児期からの生涯学習機会の確保、つまり、児童・生徒期には学校で何かやって、それが終わったら今度は生涯学習というふうに、生涯学習を輪切りにするのではなくて、横に水平に広げていく考え方を持っていかなければならないと思います。例えば、スポーツのクラブチームがこれだけ広がってきていて、また、若手のアスリートの育成をこれから進めていかなければならないといったときに、幼児教育、あるいは小中学校とタイアップしながら、文化施設を活用したり、あるいは体育協会との連携を図るといような、そういう生涯学習の展開をしていただきたいと思います。

それから、もう一つ、八王子学習の構想を立ててはどうだろうかという提案です。つまり、八王子を学ぶということです。八王子からそれぞれの地域に出ていく子どもたちがいるわけですので、八王子の歴史や文化や地理を生かした教育活動が学校でも地域でもできる、そういった生涯学習の環境をつくっていただけたらと思っています。

学校教育と生涯学習という観点からそれぞれ考え方を話しさせていただきました。以上です。

○小田原委員長 星山委員、いかがですか。

○星山委員 私は地方から八王子に転勤して、今年でちょうど10年になりました。10年間で知り合いが増えて、それだけいろいろなところで連携ができるようになったと感じているところで、今考えているのは、コミュニティの再生というキーワードです。私は特別支援教育を専門としていますが、特別支援教育は特別ではなくて教育の原点であり、人間理解の教育です。誰もが自分中心に考えますが、自分と違うタイプの子どもや人間を理解するというのは、自分自身に突きつけられた課題であって、「子どもが悪い」とか「子どもが変わればいい」「あの親が悪い」「あの先生が悪い」などと言っている限り、誰も変わらないということを、30年間体験してきました。その中で、いま一番の課題と思うのは、もう一度、人と人との信頼関係をつくらないと、教育の再生は難しいということです。それが「生き抜く力」とも非常に繋がってくると思います。

例えば、私が特別支援の必要な子にいろいろなことを教えたとしても、学級に入って、

子ども同士のコミュニティの中で、いじめにあったり、言葉遣いをからかわれたりするのは、対象の子だけを一生懸命に教えるのではなく、子ども同士の関係性も育てる教育をしていかななくては何も意味がないということを、何度も経験してきました。今や放っておいても育つ時代ではないのだろうと感じています。一方で、子どもはこんなふうによれば、この子と友達になれると具体的に教えていけばわかるのではないかということも実感しました。

実際、難しいのは大人だと思っています。特に、親御さん同士の関係性です。私は八王子で10年間、サポーターを育成するという名目で、保護者や地域の人間関係をつなぐ努力をしてきました。保護者もみんな頑張っているのだから、私たちは子どもたちを応援するためにつながっていかなければいけないのだというのを言い続けてきましたが、大人同士をつなげる、お母さん同士、保護者同士をつなげるということは大変難しいことだと感じます。いま多くの学校が苦しんでいるのも、保護者からのいろいろな要望にどうやって答えていくかということだと思うのですが、実際保護者同士の中に入ってみて、子どもだけを教育している場合ではないのではないかと感じます。保護者同士がもっと話したり、お互い向き合ったりということを、地域の力を使ってやっていかなければならないのではないかと感じています。その成果は、私は八王子では見えてきたと思います。八王子は地域の皆さんが熱心で、そこがすばらしいと思います。強みを生かすということを考えたら、この宝物が子どもたちの教育にどう生かされていくかということ考えたほうが早いのではないかと思います。

次ですが、私は教員養成をしており、もう15年になります。八王子にも他の市にも多くの教え子がありますが、新規採用されて間もなく、連休前に教員をやめてしまうことがあります。また、夏休み中には10人に1人はやめています。今年も多くの学生が新たに教員となりましたが、私はいろいろな学校の真実の姿を一番弱い立場の教員から見ているような気がします。八王子だけではなくどこでも新任の先生が非常に苦しい思いをしています。学校の先生が幸せに働いていない。毎日夜遅く、寝る時間もなくて頑張っていて、子どもを元気にできるのかなと、ずっと疑問に感じています。先生と保護者とか先生と子どもとか、1対1の関係だと対立がよく起きるので、もっとチームワークがとれないかなと。例えばどこかの先生が指導教員とうまくいかなくても、色々な人が入ってサポートできないかなと。そこだけの人間関係がうまくいかなくてやめてしまうというのは、何てもったいないのだろうということを常々感じていて、どれにも共通して

いるのは、ひとりぼっちにしないということではないかと思っていますし、人間の多様性を尊重するコミュニティをどうやってつくれるかというのが、私のやっている仕事そのものかなと思っています。

人それぞれに弱点はあるけれども、その人のいいところを生かしている組織が強いと思っていますし、学校も八王子市も地域もきっとそうだろうと思っていますので、そういうビジョンを皆さんが打ち出して八王子市がこうやればうまくいくよと、何かそんなモデルになる市になったらすてきななと思っています。これからまた頑張っていきたいなと思っています。以上です。

○小田原委員長 話がそれぞれ多岐にわたっていますが、教育長からお願いします。

○坂倉教育長 きょうの協議事項の件名が、「これからはちおうじの教育について」ということですが、この6月に国が第2期教育振興基本計画をつくりました。それを受けて、八王子市も第2次教育振興基本計画の来年度につくるということが控えています。素案を策定するメンバーには事務局の職員がいますし、今日は市民の方々の中で委員になっていただく方も傍聴に見えていますから、私は少し現実的な話をしたいと思います。何かといいますと、計画の持つ意味というところです。

13年前、私は、企画関連の部署にいまして、初めて審議会方式ではなくて市民会議方式でつくった市の基本構想・基本計画「八王子ゆめおりプラン」の策定に携わりました。また、4年前には、第1次教育振興基本計画「ゆめおり教育プラン」の策定にも携わりました。特に市民の方々と一緒につくるという形の中で私がめざしたのは、一つには大きな施策から、中の施策、小施策というのを体系化していき、そこで重点化を図りたいと思いました。逆にあまり具体的な計画とはせず、こういう方向をめざすというものを重点化していきたいと思い、取り組んだところです。計画というものがどのくらいの意味があるのかというところですが、市長は早ければ4年で替わりますが、その中でしっかりとした継続性を持つためにも、計画が持つ意味は大きいと思っています。

例えばこの数年間の八王子市の教育ですけれども、金山委員からは遅かったと言われましたが、ここ数年の特別支援教育に対する予算のかけ方や伸びは非常に大きいものがあつたと思っています。それは、はっきりと「ゆめおり教育プラン」の中で10本の重点施策の中に入れたということが大きいと思っていますし、学校の自主性という中で、予算額的には少ないかもしれないけれども、校長裁量予算が増えた結果、校長の意識も高まり、学校内での指揮命令権の裏づけもついたり、また大いに自信を持った方も多い

と思っています。もう一つ大きかったのは地域運営学校を取り入ると載せたことによって、この4月で地域運営学校は37校から44校になり、それぞれの地域で、開かれた学校、地域と一緒に運営していく学校という意味で、学校が外から非常に見えやすくなったということがあると思っています。

八王子市はこういう方向を目指すということをはっきり載せることによって、このように意味を成しますので、ぜひ、事務局のメンバーの方も、各委員の方も、具体的なこともぜひ載せてほしいと思います。

教育委員会制度の改革などが話題となっていますが、施策的には、「ゆめおり教育プラン」でかなり拾い上げていると思います。そういう中で、もし足りないとすれば、ESDとかグローバル化とか学校ICT（※2）の環境整備だと思いますので、そうした部分をやっていただきたいと思います。

それから、家庭教育支援をどう載せるのか。支援で抑えるのか、よりもう少し積極的に反映していくのか、その辺のところも大きな意味を持っていると思います。

生涯学習については、生涯学習推進プランという別のプランがあるので、どうしても今の計画の中では、一定の表現に留まっています。しかし、これからの時代の教育の二大車輪と考えたときには、生涯学習にももう少し重きを置く必要があると思っています。

こうあるべきだ、こういう形にしてほしいということも大事ですが、そのときに背景として、八王子市の状況というものもぜひ考えてほしいと思います。いかに人口が多くて市域が広いといっても、今の学校をこのまま続けたときに、いろいろな面で本当に子どものためにいいのかどうかというところをぜひ検討してほしいと思っています。計画に載せるということは非常に大きな意味を持ちますし、我々もそれに沿って動くわけですので、ぜひ、計画策定に臨む姿勢も含めて、理念よりも具体的にその計画に望むことを話しました。

○小田原委員長　今の教育長のお話を伺っていると、理念を言わないということでしたが、私は理念から攻めたいと思います。0歳から100歳までの生涯教育の中で学校教育や家庭教育、それから地域社会、生涯学習といったところを考えていていただきたいと思っています。

先ほど和田委員は幼児の部分を挙げられましたが、義務教育が5歳からという検討がされており、そうすると、1・2歳から、保育園や幼児教育が始まってくることになると、それと学校とをつなげていくということ、どうしても考えなければいけないだろ

うということ。それから、市の教育から離れるわけだけでも、高校、大学も学校教育と考えると、その後の親とか大人の教育というか、学びがどうしても必要になってくるだろうということです。場所と年齢との兼ね合わせが考え方として必要だろうという理念的な部分ですね。

では、学校教育の中で考えなければいけないのは何かというと、幼児教育も含めてなのですが、体系的な体験学習、あるいは経験が必要だということ。これは今もいろいろな社会科見学や校外学習や修学旅行などが行われているわけですが、それぞれがばらばらに行われているものを、キャリア教育なども含めて体験というものを体系的に構築する必要があります、それを主にすることだろうと思います。それを学校だけではなく、昔あった子ども会のような組織を地域でもつくっていったらいいなと思っています。

それから、それらを担当するのは教員ですから、教員の指導力の向上が求められてきます。教員、特に弱い新規採用の教員が毎晩遅くまで残っているということですが、なぜそのようになってしまったのか。そういったことは、教育委員会の新採教員研修の中ですくい上げられていないのか。いないとすれば、そこをすくい上げる教員研修をつくっていかねばならないだろうと思います。

一巡しましたので、今まではかの方が触れたことも含め、もう少し述べたいところがありましたらお願いします。改めて金山委員からお願いします。

○金山委員　まず、教育長に述べたいのですが、特別支援教育については八王子が遅いと言っているわけではなく、むしろ八王子の状況を八王子以外の方に話すと、こちらはまだそうっていないと驚かれることが多いのです。そういう意味では、八王子はとても頑張っていると思います。ただ、もしかしたらもう5年くらい前倒しできたかなという気がしているということです。

今、皆さんのお話を聞く中で思ったのですが、和田委員がおっしゃった、各地域の特性を生かしてブロックや地域で何かできないかということは、私も最近思っていました。八王子は学校数多く、地域も広く、環境がばらばらであるということが、どこかデメリットのように捉えられてしまって、私たちもそういう見方をしてしまうことが多いのですが、逆にプラスにしなければいけないことだと思います。例えば、このブロックでうまくいったから、今度はここでやりましょうということが、同じ一つの行政区の中にあるので可能だと思うのです。そういう意味でも、先程も話に出ましたが、全部同じというのが平等ではないということは本当にそうだと思いますし、できるところからよくし

ていこうという形を、周りの地域も保護者も認めた上で進めていかなければならないのではないかと思います。

それから、星山委員の言われたとおり大人同士の関係というのは本当に難しいと思います。特に、私のようにPTAに長く関わっていると、大人同士の関心の薄さや、かわり合いの下手さということが年々際立ってきているような気がしています。PTAの力が弱まるということは良いことではなくて、PTAというのは先生と保護者が一緒に子どもたちのために活動しましょうという組織なので、ある意味こんなすばらしい組織はないのです。今はそれをフルに使って活動すべき時期で、PTAの方も、地域とか一般の保護者の方と学校との間に入って自分たちが動かすのだというぐらいの意欲を持っていただきたいと思っています。地域運営学校にいろいろな方に入っていただくことで、地域にお願いしてやっていただくこともたくさんできていますので、今までは行政がしてきたことをお願いしたり、逆に、今まで行政がやっていなかったことをやってくださいと言われたときにすぐに断らないで、一旦考えてみるといったお互いのやりとりが必要だと思います。ESDやキャリア教育、それから体験を増やすということももちろんとても必要なことだと思っているのですけれども、そういう細々したことは皆さん方にお任せして、その前段階として何かそういうことをお願いしたいなと思いました。

○小田原委員長 和田委員、いかがですか。

○和田委員 先ほど具体的に提案したことをどうやって生かしていくかというところで、これから学校教育や教育活動の水準を上げたり、質を高めていくためには誰がキーマンなのだろうかと考えた時、今までは教育委員会が引っ張ってきたのですが、これだけ若い先生が増え、指導力に様々な課題が出てきている中であって、頼るところは力のある校長ではないかと私は思っています。

熱意と専門性のある校長先生方をブレインとした教育政策、つまり、これからの学校や教育をどうしていくのかというところを話し合うような機会や組織をつくっていかないと、本当の意味で学校が変わっていかないのではないかと思います。

学校を訪問してみると、校長先生方にはいろいろやりたいことがあっても、いつしか諦めてしまうという状況になってしまっているところもあるので、志のある校長先生を集めた勉強会や、教育委員会の幹部と話をするような機会を設定していく必要がこれからあるのではないかと思います。

それからもう一つ、これは私が見ている範囲の中での印象ですが、今の大学の授業は

おもしろいと思います。90分間、生徒に飽きさせない授業をすることに、とても苦労しています。小学校、中学校の授業時間とは違うのですが、大学の授業では必ず映像などのビジュアルな資料を使い、また、グループの活動や話し合いを必ず取り入れていきます。それからレクチャーという考え方をし、最後に、書きましょうという作業を入れていくのです。小学校や中学校の先生方には、ぜひ大学の授業も参考にしてほしいと思います。先ほど挙げたように、八王子には大学などの高等教育機関が数多くあるのだから、先生方に勉強していただくような機会があれば、今までの授業のイメージが変わったり、子どもを自主的に活動させるということの意味が少しわかってきたりするのではないかと思います。いま大学も学生たちに勉強させることに必死になっていますので、その授業と一緒に見たり、そこで使われている資料なども参考にしたりすると、小学校、中学校の授業も変わっていくのではないかと思います。そういう意味で、大学との連携をいろいろな形で進めていくということも、今後の一つの大きなテーマではないかと思っています。

先ほど、星山委員から、コミュニティという話がありましたが、私は校長先生方のコミュニティつくっていくべきだと思います。驚いたことに、副校長先生たちがお互いの名前を知らないのです。校長先生もそうです。学校数が多いといっても、名前やいろいろな特色、また、何を専門としているかぐらいは知っているべきではないかと考えると、学校経営を担っていく校長先生や副校長先生という管理職の人たちのコミュニティもつくっていかないと、学校あるいは八王子全体が変わっていかないのではないかと思います。

以上です。

○小田原委員長 星山委員、お願いします。

○星山委員 先日オランダのアムステルダム的小学校に行ったときに、とても驚きました。

先生がクラスの約2分の1の生徒に教室の真ん中で授業をしていて、教室の両端は全部異学年になっている混合の学年になっていました。そこでは4人ずつのグループがあり、その4人は皆が違う学年で教え合い、自主的に個別学習をしているという授業がどの学年でも行われており、高学年になると教員1人で受け持つという画期的な授業の方法でした。利点も欠点もあると思いますが、世界はいろいろと工夫しているなと思いました。

これだけ多様な子どもや保護者が出てきた中で、こちらも従来のやり方だけでは難しいとわかっていたのですが、いろいろなやり方があるということを話し合い、工夫し合

い、勉強し合うというゆとりが教育現場になくなってきているので、こういったことが大事なのではないかと、皆様のお話を聞いて再確認しました。

もう一つ感じたのは、楽しくないとだめだということです。私が最近特に工夫しているのは、教員の研修も私1人だけが話さないように、必ず先生同士での話し合いを入れることです。また、他校の先生方との話し合いや、保護者を話し合いに入れるという研修もやっていますが、とてもうまくいっている気がします。最初はお互いに戸惑いや抵抗があったように思いますが、慣れてくると、先生や保護者がどのようなことを考えているのかがお互いにわかってきたので、最初の話し合う方法論というハードルが越えられれば、いろいろなところで井戸端会議やいい意味での会議が復活できるのではないかと思います。ただ学校や先生に任せておけばいいというのではなく、昭和の子どもたちが自然にしていたコミュニティのあり方というものを、どうしてできていたのだろうと考えたときに、コミュニティを再生する工夫がよみがえってくるのではないかと考えています。

あまり難しいことではなくて、私たちの世代が親や祖父母からやってもらっていたことを思い出して、今、地域でやってみるだけでも、かなり効果があるのではないかと思います。

以上です。

○小田原委員長 では、教育長お願いします。

○坂倉教育長 金山委員から、必ずしも平等でなくともいいのではないかと、それから努力というあたりを大いに評価すべきではないかという話が、和田委員からは、今までどちらかという教育委員会が引っ張ってきたけれども、そうではなくて、もっと校長のパワーを使っていきたいという話が、そして、星山委員からはオランダのすばらしい例が出てきました。これらと直接関係はありませんが、私が感じているのは、やはり教育は人が財産だということです。このことを、今、教員系の管理職にも行政系の管理職にもぜひ言いたいと思っています。

先ほどなぜ計画の話をしたかということ、皆さんが提案しない限り、新しいことは絶対にできないのです。皆さんが、2万9,000人弱の児童と1万4,000人弱の生徒のために働いているのだと考えたときに、既存の中の予算のあり方を、全く気にしないわけにはいきませんが、もっと伸び伸びとやってほしいと思うのです。皆さんが本気になってやらなければ何も動かないという意味で、ぜひやってほしいし、計画をつくるに

あたっては、20年、30年先を見据えた上でこの10年をどうしていくかということについて、考えてほしいと思います。皆さんが持つ子どもたちへの思いや教育への思いを込めて、大いに議論していただきたいと思います。いずれにしても、人は財産だということをご念頭に置いてほしいと思います。

○小田原委員長　今の教育長の話と、金山委員の地域ブロック単位の研修やPTAということを考えていくと、方向性として、今私たちが進めている小中一貫の地域運営学校をもっと大規模化するというを考えていっていいのではないのでしょうか。

それから、和田委員のお話にあった、力のある校長を育てなければならない。育てるのは、やはり教育委員会だろうと思います。私は以前、校長の寄り集まる校長塾というような場所をつくろうと言ったことがあるのですが、教育委員会から声をかけていかないと、なかなか集まることは難しいと感じます。校長たちのコミュニティをつくっていれば、学校も違ってくるだろうと思います。また、校長が多過ぎるということもあるかもしれないから、大きな学校にすれば校長の数は減り、力のある人たちが残るだろうとも思います。

それから、星山委員のアムステルダムの小学校の話ですが、八王子でも学び合い、教え合いというのは研究指定校でやっています。中学校でも50分の授業の中で、星山委員がお話しされたようなことができています。異学年の人たちがいつも入っているわけではないのですが、異学年集団のような形で、教え合い、学び合いということが実践されているということがあるのです。それは和田委員のお話とも重なってくるのではないかと感じますが、それは校長の教育課程の編成権というようなものをもう少し拡大していけばできるのではないかと思います。

他に何かありますか。

○金山委員　八王子にはすばらしい先生がたくさんいますので、是非一度、話し合いの場などを設けていただけると嬉しく思います。

○小田原委員長　もちろんです。さらにいかがですか。

○金山委員　やはり、教育は人というのは本当だと思います。その一角が教育委員会の事務局であり、一角は学校の先生たちであり、今、その一角に地域の方や学校にかかわってくださるボランティアの方や、それから企業の方など、いろいろな方が入ってくださいます。そのことで学校の風通しも良くなっていますし、新任の先生が泣いているということも、おそらく開かれた学校では起こらないことではないかと思います。だから、人

間のつながりというところが、今日の一番のお話だという気がしました。

○小田原委員長 P T Aの話がありましたが、P T Aを義務化するということは、何年か前に言ったことがあります、それをまた言ってもいいという気がしました。

○坂倉教育長 義務化してもだめだと思います。

○小田原委員長 地域運営学校とは別にしてもだめですか。

○坂倉教育長 とてもうまくお父さんに出てきてもらっているところもありますが、義務だからやりなさいというと、高学年の子のお父さんほど参加に難色を示しますので、参加しなくなるような魅力とか何らかの方策を考えないとだめだと思います。

○金山委員 自治会の役員のようなことになるのですか。

○小田原委員長 八王子も地域が崩壊し始めているでしょう。

○坂倉教育長 八王子もそういう状況はありますが、他市に比べれば、まだ町会加入率は高いです。地域運営学校でよく話すのは、町会のある地域はそういう地域を母体にするけれども、ニュータウンの地域運営学校などは、学校が地域の新しいコミュニティの中心ですから、コミュニティスクールではなくてスクールコミュニティになっているという話になっていきます。やはりやり方次第だと思います。

○小田原委員長 和田委員、どうですか。

○和田委員 私も、委員長のお言葉に対してなのですが、全体を見ると、いろいろな校長先生がいますが、校長先生方の中には志の高い人、熱意のある人がいるのです。私はそういうものを信じています。そういう人たちを集めて、その人たちの英知や力を集めるような仕組みがないと、教育委員会が百人以上の校長先生を育てるなどということはまず無理で、やはり自分たちで自分たちの校長会を何とかしなければという力をつけていかないと、上からの引っ張るだけではなかなか立ち行かないのだろうと思っています。

○小田原委員長 私も一生懸命やっている人を何人かは知っていますが、ただ、この人たちは、自分のところから出ようとはしないで、囲んでしまっているところがあります。

○金山委員 そこは問題がありますね。共有がなかなかできません。

○小田原委員長 子どもたちだけではなくて、大人の中でも出ようとするとなたかたり、いじめに遭ったりするということがあるかもしれないし、微妙なところがあるかもしれませんが、力を結集し、生かしていくような仕組み、あるいはきっかけを探していきたいと思います。

皆さん、短い時間でしたので、言い切れなかったところはあるかもしれませんが、い

ろいろな観点、あるいは立場からの思いが語られたと思いますので、事務局にはそれらを酌み取り、それをぜひ施策に生かしていただければと思います。ぜひ、また、活発な御意見を交換していきたいと思います。

それでは、「これからはちおうじの教育について」という協議につきましては、以上で終了といたします。

今回傍聴いただきました方で、御意見などがございましたら、担当者に寄せていただければありがたいと思いますので、よろしく願いいたします。



※1

ESDはEducation for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。

今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

（文部科学省HPからの引用）

※2

ICTはInformation and Communication Technologyの略で「情報通信技術」と訳されます。

本市では市立小中学校の老朽化した情報教育機器を計画的に更新し、情報教育を円滑に行うためのICT環境の整備を進めています。

また、普通教室や特別教室で、インターネットを活用した調べ学習を行うことができるように、教育用パソコンの整備を進めるとともに、校務の効率化や事務改善をめざして校務用パソコンの整備についても取り組んでいます。